

道徳的価値の理解を基に、

道徳的実践意欲を育成する指導の在り方

～ねらいとする道徳的価値を実生活に

生かそうとする生徒の育成を目指して～

佐倉市立臼井南中学校
倉田 麻美
木戸 聡子

1 研究主題

道徳的価値の理解を基に、道徳的実践意欲を育成する指導の在り方
～ねらいとする道徳的価値を実生活に生かそうとする生徒の育成を目指して～

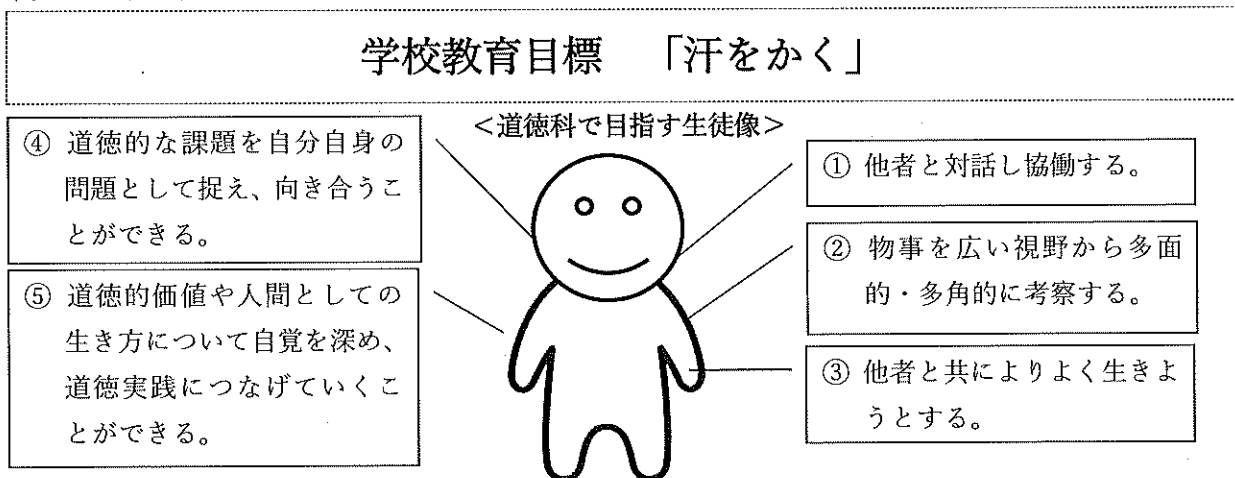
2 主題設定の理由

本校の実態と指導上の課題

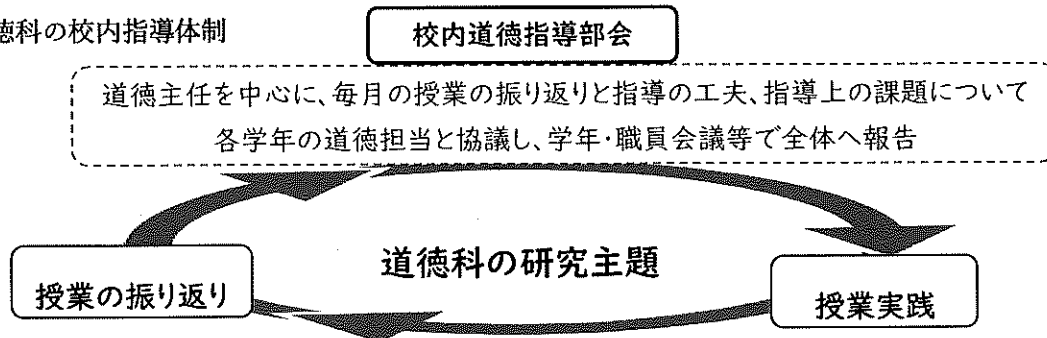
昨年度、実態把握のために実施したアンケートの結果から、本校の生徒の道徳の授業への関心は高いことがわかった。自分の考えを伝えたり、与えられた質問に対して友達と話し合ったりすることについても積極的な態度が見られる。道徳の授業を通してどのようなことが身に付いたと感じたかを問う質問については、「物事に対する自分の考え方を深められたと感じた」「新しい考え方が身に付いたと感じた」と全体の80%以上の生徒が回答した。一方で、「今までの道徳の授業で学んだことで、学校生活や日常生活で生かそうとしていることはあるか」という質問に対して、「どちらかといえばある」「ある」と回答した生徒は全体の52.4%に留まり、道徳的価値を実生活に生かそうとする意志(道徳的実践意欲と態度)が他の項目と比べて低く、課題があることがわかった。従って、最終的に全体の半数以上の生徒に道徳的実践意欲と態度が育まれることを目標とし、研究を進めたい。

また、職員の学校評価アンケートから「考え、議論する道徳」の授業実践に課題があると感じている職員が多いことがわかった。道徳的実践意欲と態度を育成する指導と「考え、議論する道徳」の実践に向けた手立てはどうあるべきか、各題材に合った議論の仕方や形態の工夫についても研究していきたい。

(2) 学校教育目標と道徳科で目指す生徒像



(3) 道徳科の校内指導体制



3 理論研究

(1) 「道徳的実践意欲と態度」について

(中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編より)

道徳的実践意欲と態度(以下「道徳的実践意欲」とする。)は、道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味する。道徳的実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構えとすることができる。

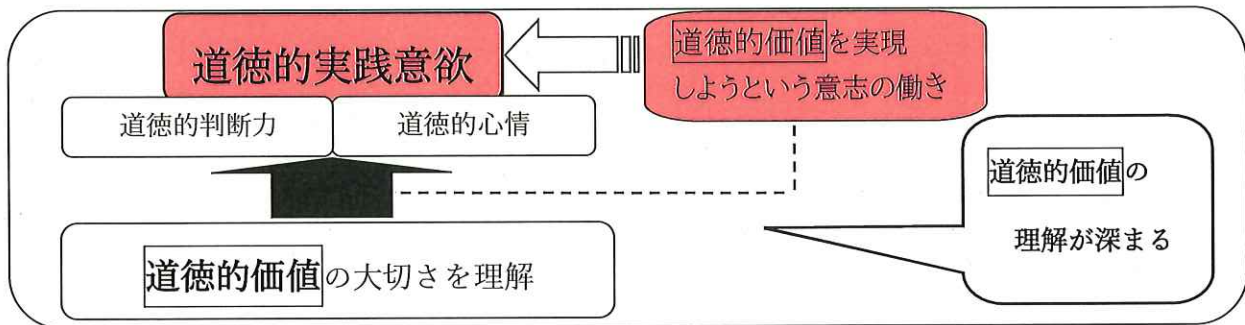
道徳的価値 : よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるもの。

道徳的判断力 : 人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

道徳的心情 : 人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情。

道徳的実践意欲 : 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き。

道徳的態度 : 道徳的判断力、心情、意欲に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え。



上の図のように、「道徳的実践意欲」の育成のためには道徳的価値の理解が必要不可欠である。道徳的価値の理解が深まることで、道徳的実践意欲の基盤である道徳的判断力と道徳的心情が生まれ、道徳的実践意欲へと結びついていくと考える。

本研究では、道徳的実践意欲を「道徳の授業を通して学ぶ価値を学校生活や日常生活に生かそうとする意志」と捉えて、研究を進める。

(2) 「考え、議論する道徳」について (中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別の教科 道徳編より)

昨今の道徳の授業の課題の一つとして、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われることが指摘されている。現行の学習指導要領では、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換する必要性が求められている。

本研究では、「考え、議論する道徳」を、ねらいとする価値についての理解を深め、道徳的実践意欲に繋げるための手立てとして捉えたい。「考え、議論する」ために、コの字型や少人数グループでの話し合い活動など、学級の実態に合った議論の形態を工夫する。また、「考え、議論したい」という意欲を引き出すために、教材の選定と提示方法の工夫や、多様な考え方を引き出し、思考を深められるように発問を工夫する。

研究仮説と具体的な手立て

(1)研究仮説

・仮説1

話し合いの工夫を行えば、多面的・多角的に考えることができるようになり、道徳的価値についての理解が深まるだろう。(①道徳的価値の理解を深める)

・仮説2

生徒の実態に合った教材を選定し、授業の展開を工夫すれば、道徳的価値を自分事としてとらえられるようになり、道徳的実践意欲が育まれるだろう。(②道徳的実践意欲を育成する)

(2)具体的な手立て

<仮説1>

話し合いの工夫を行えば、多面的・多角的に考えることができるようになり、道徳的価値についての理解が深まるだろう。(①道徳的価値の理解を深める)

○議論の仕方及び形態の工夫

例) ・コの字型の授業形態 → 「考え、議論する雰囲気」へ切り換えるため。

- ・少人数グループでの話し合い活動 → 多面的・多角的に考えることができるようになるため。
ねらいとする道徳的価値を明確にし、理解を深めるために主発問で話し合い活動を重点的に行う。

○ICT、思考ツールの活用

例) ・題材に合った思考ツールの活用 → 自分の考えをまとめやすくするため。

新しい考え方を取り入れたり、自分の意見と比較するために、話し合い活動では、色分けをしながら記入する。

- ・ムーブノートの集計機能の活用 → 学級全体の意見を可視化するため。

<仮説2>

生徒の実態に合った教材を選定し、授業の展開を工夫すれば、道徳的価値を自分事としてとらえられるようになり、道徳的実践意欲が育まれるだろう。(②道徳的実践意欲を育成する)

○教材の選定と提示方法

例)教材に関連した動画の活用

- ・1年生教材『どうせ無理をなくしたい』【内容項目：A 希望と勇気、克己と強い意志】

→動画「Hope invites Tsutomu Uematsu (TEDx Talks)」

- ・2年生教材『短所を武器とせよ』【内容項目：A 希望と勇気、克己と強い意志】

→動画「竹下佳江スーパープレイ集(YouTube)」

『清掃はやさしさ』【内容項目：C 勤労】

→動画「新津春子さんを紹介したニュース動画(YouTube)」

『たったひとつのたからもの』【内容項目：D 生命の尊さ】

→動画「たったひとつのたからもの懸命編(明治安田生命 HP)」

- ・3年生教材『変わりゆく地球』【内容項目：D 自然愛護】

→動画「2100年 未来の天気予報(環境省 HP より)」

『歩きスマホをどうするか』【内容項目：A 節度、節制】

→動画「危険! 歩きスマホと点字ブロック(NHK ラーニング)」

『ハゲワシと少女』【内容項目：D 生命の尊さ】

→動画「草を食べて腹を満たす人々 内戦続く南スーダンで(BBC NEWS JAPAN)」

- ・パワーポイントを使い、テレビ画面に画像を提示

→生徒の興味・関心を引き出し、道徳的価値を自分事として捉えるため。

○終末の工夫

例)・「今後どう生かしていきたいか」「～を生かすために日頃からどのように考え、行動するべきか」

などの道徳的価値を自分事として捉えるようになるための工夫

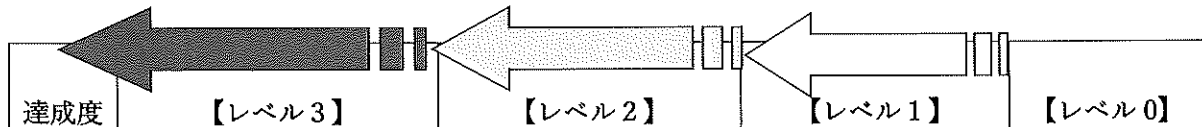
仮説の具体的な手立てを各学年の実態に合わせて効果的に実践していくために、道徳主任と各学年2名の道徳担当が、毎月の校内道徳部会議で、指導の振り返りや工夫について協議を重ねた。

(3)検証方法 「道徳的実践意欲」の分析について

校内道徳研修会で、仮説の具体的な取組を実証するための授業を行い、生徒が授業の最後にワークシートに書いた感想を3つのレベルに分け、道徳的実践意欲の育成について分析する。

また、1学期末に、全校で道徳の授業アンケートを実施し、仮説の具体的な取組の成果を分析する。

3つのレベルに分けた分析



達成度	【レベル3】	【レベル2】	【レベル1】	【レベル0】
	道徳的実践意欲	価値の理解の深まり	価値の理解	価値理解なし
	道徳的実践意欲(道徳的価値を実生活に生かそうとする姿勢)が見られる感想	道徳的価値への理解の深まりが見られる感想	道徳的価値への理解のみが見られる感想	道徳的価値への理解が見られない感想

最終的に【レベル3】「道徳的実践意欲」の感想が生徒から自発的に出るように、授業を工夫する。

3つのレベル別分析方法の例

授業研修の指導案の中にも明記する。

<例>

教材	2年生道徳「短所を武器とせよ」			
内容項目	A 主として自分自身に関すること 希望と勇気、克己と強い意志			
ねらい	短所の見方・考え方について話し合うことを通して、自分の短所に対する見方・考え方を改めて困難を乗り越えていこうとする態度を育てる。			
目標とする感想	達成度	レベル2	レベル1	レベル0
	価値の理解	価値の理解の深まり ・短所を武器にするという考え方で活躍した竹下選手はすごいと思った。自分の短所と向き合って、前向きに生きることは大切だと思った。	価値の理解 ・短所を武器にするという考え方で活躍した竹下選手はすごいと思った。	価値の理解なし ・よく話し合うことができた。
	達成度	レベル3		
	道徳的実践意欲	道徳的実践意欲 ・私も今後は自分の短所と向き合って、前向きに生きていきたいと思った。 ・私は今後、自分の短所を生かすことも考えながら、部活動で練習していきたいと思った。		

5 仮説の検証

校内道徳指導部会を通して、各学年の指導の工夫、授業実践の振り返り、指導上の課題について毎月協議を行いながら、仮説の検証に向けた指導の工夫を全校で行った。また、道徳科の校内授業研修会では、検証授業で研究仮説の具体的な手立てを実践した。

(1)検証授業

実践1

第1学年1組 道徳科学習指導案(令和四年度)

- 1 主題名 内容項目 希望と勇気、克己と強い意志 (内容項目番号 A-(4))
(教材名 『どうせ無理』をなくしたい) 出典「とびだそう未来へ1 (教育出版)」

2 主題設定の理由

(1) 価値について

本教材は「A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志」にあたり、「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。」という内容である。生徒達は中学校へ入学し、勉強や部活動、委員会活動を行い、これらの活動に慣れることに精一杯取り組んできたと感じている。中学校に入学した当初は目標を立てる時も、漠然と「頑張る」と言った言葉が目立った。生徒達は初めての定期テストを終え、部活動の練習にも慣れてきた。そこで、自分自身の目標を考え、毎日の生活をより充実したものにするために、自分で設定した具体的な目標に到達しようとする意欲を育み、そのために必要なことを考えさせたい。入学当初は様々なことに前向きな気持ちであっても、学習面ではテストの点数が思うように伸びなかったり、部活動では先輩のように技能が身につかなかったりと、理想と現実の差を感じている生徒も少なくない。目標の達成には困難や失敗があったり、辛く感じる時期もある。そして、それらから逃げ出したくなったり、努力を続けることが難しいと感じることもある。また何かに取り組む前にあきらめてしまう生徒もいる。それも中学1年生なら当然のことと考え、諦めずに努力していこうという意識を育てていきたい。

以上のように考察すると、本教材を通して、目標に向けて周囲の理解が得られなかったり、困難に直面してもあきらめず、努力して目標を達成した人の生き方に触れることで、自分の目標達成のために何が必要かを考えることができるであろう。仲間とそれを話し合い、考えを共有することで夢や目標をあきらめない意欲を育みたい。

(2) 生徒の実態について

本授業を実践するにあたり、以下のようなアンケートを行った。(実施人数28人)

- ① 道徳の授業で学んだことは必要のあることだと思いますか。

とても必要のあることだと思う	21
必要のあることだと思う	7
あまり必要のないことだと思う	0
必要のないことだと思う	0

② 道徳の授業は好きですか。

好き	16
まあまあ好き	12
あまり好きではない	0
嫌い	0

③ 自分の考えを友達に伝えるのは好きですか。

好き	12
まあまあ好き	16
あまり好きではない	0
嫌い	0

④ 友達の意見や感想を知ることは好きですか。

好き	19
まあまあ好き	9
あまり好きではない	0
嫌い	0

⑤ 与えられた質問について友達と話し合うことは好きですか。

好き	17
まあまあ好き	11
あまり好きではない	0
嫌い	0

⑥ 今までの道徳の授業を通して、物事に対する自分の考え方を深められたと感じたことはありましたか。

ある	16
どちらかといえばある	12
どちらかといえばない	0
ない	0

⑦ 今までの道徳の授業を通して、新しい考え方が身についたと感じたことはありましたか。

ある	20
どちらかといえばある	8
どちらかといえばない	0
ない	0

⑧ 今までの道徳の授業で学んだことで、学校生活や日常生活で生かそうとしていることはありますか。

ある	14
どちらかといえばある	13
どちらかといえばない	1
ない	0

⑨ やる前から「どうせ無理」だとあきらめたことはありますか。

ある	8
ない	20

1年1組は、29名である。4つの小学校から卒業しているが、それらの壁を感じさせないくらい、全体的に明るく素直な雰囲気がある。何事にも前向きに取り組むことができる生徒が多く、日常生活も協力して送っている。普段の生活や道徳の授業でも自分の意見を伝えることに積極的な生徒が多く、学級全体でも少人数でも仲間の意見を聞き、話し合うことができる。アンケート結果からも、お互いの意見を知ることを楽しみ、話し合いに参加している様子がうかがえる。普段の発言や行動が幼い生徒や、控え目な生徒が発言をし、周囲を驚かせたり、「なるほど」と言わせたりすることもあり、様々な意見を生徒達が躊躇なく発信することで、互いの考えを深めることができている。

事前のアンケートからは、何かに取り組む前から「どうせ無理」だとあきらめた経験のある生徒は8名で、それらは目標が大きすぎると感じ、あきらめていたことが理由である。それ以外の生徒は目標を持ち、前向きに取り組んでいる姿勢がアンケートからうかがえた。その一方、将来の夢や目標を具体的に持っていないものの、見つかった時には前向きに取り組もうと考えている生徒も多いことが分かった。そこで、夢や目標を考えられていない生徒には、まずは身近なことに対して、目標や到達したいことを見つけ、そのためにできることは何かを考えさせたい。毎日を忙しく生活していて、それをこなすことに精一杯で具体的な目標を持っていない生徒もいる。日々の取り組みも単純に「〇〇を頑張る」など、取り組みの理由や、それを達成する意味を考えられていない生徒もいる。そこで、日々の生活にも目標を設定し、それらを達成することで更に充実した生活になることに気が付かせたい。また、具体的に将来の夢がある生徒には、それらを実現させるために、日常生活で夢をあきらめずにそれらを丁寧に取り組み、積み重ねていくことの大切さに気付かせたい。

(3) 教材について

本教材では、幼い頃からの夢をかなえた、技術者の植松努さんの話を取り上げている。植松さんは、中学生の時に将来の希望として「飛行機や宇宙ロケットの仕事がしたい」と先生に伝えた。しかし、それは「夢みたいなことだ。無理だ」と言われてしまう。周囲から「どうせ無理」だと言われても、あきらめずに夢を実現させた植松さんの努力や思い、また新たな夢についても本教材では触れられている。植松さんが夢を抱いたきっかけや学生時代の努力、就職して夢に近づいたが、周囲の仕事に対する思いと自分との違い、「『好き』という思いがないから、教えてもらったことと習ったことしかできなくなってしまうのだ」と仕事を辞め、新しい仕事に就いたこと、どんな困難があっても夢をあきらめずに実現させた植松さんの道のりを考え、希望や勇気、強い意志をもって生活することの大切さ、大切さに気付かせたい。

以上の分析からねらいを設定すれば、夢や目標に向けて努力しよう、諦めずに取り組もうと前向きな気持ちにさせるきっかけを作ること、ねらいとする道徳的価値の理解が深まると考える。さらに、友人の目標とそれに必要なことを共有することで、自分の目標や夢を具体的に考え、困難に向き合い、それらを実現させようとする道徳的実践意欲が育まれると考える。

(4) 指導観

この教材を通じて、生徒が自分自身の夢を「どうせ無理」とあきらめずに、一つひとつ困難にも向き合い、夢や目標の実現のために努力することの大切さに気付かせたい。具体的には植松さんが学生時代、先生や周囲の理解が得られなくても、好きなことに真剣に取り組んだこと、様々な努力や経験が自分の夢の実現につながったことを読み取らせたい。それらの姿から感じたことを自分自身の事としてつなげて考えられるようにしたい。そのために、クラス全体で植松さんが夢を実現させた要素を思考ツールの「クラゲ・チャート」を使って可視化させたい。その際に、夢を実現させるために必要なことは、大きなことや、先の事ではなく、毎日の生活や身近なところにあることに気付かせたい。その後、自分の目標を実現させるために必要な要素をそれぞれまとめ、級友と共有させる。そうすることで、自分の目標や夢を達成するために必要なことを多面的・多角的に考える機会にしたい。お互いの夢を認め合い、切磋琢磨することで、充実した中学校生活を送ろうという意識を育むきっかけとなる授業にしていきたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

「どうせ無理」と言われた夢を実現させた植松さんの生き方を学ぶことを通して、より高い目標を持ってその達成を目指し、希望と勇気をもって着実にやり遂げようとする心情を育てる。

(2) 仮説との関り

本時では以下のように指導していく。

<仮説1>話し合いの工夫を行えば、多面的・多角的に考えることができるようになり、道徳的価値についての理解が深まるだろう。(①道徳的価値の理解を深める)


自分で目標を設定し、それに向けて努力することや我慢することの大切さに気が付かせるために、植松さんの夢を実現させた理由や過程をクラス全体で一緒に考えていきたい。そのためにクラゲ・チャートの思考ツールを用いて、実際に黒板に書いてみせることで、生徒の気付きを促したい。また、個人でもクラゲ・チャートを使い、主発問について考えさせる。その後、少人数で意見を共有させ、仲間の目標やそれを実現させる要素を共有することで、道徳的価値の理解が深まるように指導を工夫する。


<仮説2>生徒の実態に合った教材を選定し、授業の展開を工夫すれば、道徳的価値を自分事としてとらえられるようになり、道徳的実践意欲が育まれるだろう。(②道徳的実践意欲を育成する)

中学校生活が始まり、3ヵ月が経った。毎日の学校生活を元気に過ごしているが、部活動や日々の授業、課題など、目の前の事をこなすのに精一杯な生徒も多い。6月に初めての定期テストが実施され、生徒達は事前にテストの目標や、計画を立てて学習を行った。テストの結果が返却され、その反省を行ったばかりである。定期テストに向けた学習に対して、一連の流れを経験し、どうすれば目標に近づくことができ

るのか、学習や部活動など、目の前の課題にただ取り組んでいるように見受けられるが、「なぜこれに取り組むのか」を改めて考える機会にしたいと考える。仲間と考えを共有した後、主発問とのつながりを意識して終末の発問を設定し、普段の生活でどのような事が実践できるかを具体的に考え、意見を共有することで道徳的実践意欲の育成を目指す。

(3) 展開

	時配	生徒の学習活動と主な発問 (○、◎は中心発問)・は予想される生徒の反応	指導上の留意点 評価の視点○	資料
導入	5分	1 事前アンケートのまとめ 「小さい頃の夢はなんでしたか」 「そして今、それはどうなりましたか」	・どのような夢があったのか、なぜその夢をあきらめたのか、生徒の意見を聞く。	
展開 3 5 分	1 7 分	2 『どうせ無理』をなくしたい』を読み、目標を実現するために大切なことについて、考えたり話し合ったりする。 ○植松さんは、どうして「無理」と言われていたことを実現できたのでしょうか。 ・あきらめなかったから ・好きなことを続けたから ・工夫したから ・多くの人と協力したから ・おじいさんが喜んでいたので (誰かを喜ばせたいと思ったから) (多面的・多角的に考える)	・音読は教師が行う。 ・ワークシートに記入後クラス全体で確認し、意見を発表させる	ワ ー ク シ ー ト
			・教師は生徒の発表を基に、思考ツール、クラゲ・チャートを黒板に完成させる。それぞれの考えを可視化させる。	
	2 0 分	○あなたが今、考えている目標や夢はなんですか。 ・部活動のレギュラー ・試合で点をきめる ・テストで良い点をとる ・漢字テストで満点 ・ピアノで練習している曲を弾けるようになる ・スポーツ選手になる ・美容師になる	・ワークシートに記入はせずに口頭で簡単に述べさせる。	・ワ ー ク シ ー ト

	<p>・PCプログラマー</p> <p>◎目標や夢を達成するために必要なこと、大切なことはどんなことでしょうか。</p>	<p>・机間指導の際、考えられない生徒には植松さんが成功したのはなぜかを考えさせる。</p>
<p>学習指導要領</p> <p>「どうせ無理」をなくしたい」(指導要領改訂後、高校(新課程)に明確に示す。これにより「無理」を打破して達成可能な目標を設定し、達成させることが求められる。また、「無理」を打破して達成可能な目標を設定し、達成させることが求められる。また、「無理」を打破して達成可能な目標を設定し、達成させることが求められる。)</p> <p>植松さんの成功の秘訣</p> <p>・目標を持つこと ・一生懸命やること ・努力すること ・あきらめないこと ・勇気を持つこと ・達成した時の自分をイメージすること ・一緒に頑張る仲間</p> <p>植松さんの成功の秘訣</p> <p>・目標を持つこと ・一生懸命やること ・努力すること ・あきらめないこと ・勇気を持つこと ・達成した時の自分をイメージすること ・一緒に頑張る仲間</p>		<p>・ワークシートを配布し、思考ツール「クラゲ・チャート」を使って考えを個人でまとめる。</p>
	<p>3 ワークシートを配布し、自分の目標達成に向けて必要だと思うこと、そのためにできることを記入する。</p> <p>(道徳的価値を自分事として捉える)</p> <p><目標に向けて必要なこと・大切なこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を持つこと ・一生懸命やること ・努力すること ・あきらめないこと ・勇気を持つこと ・達成した時の自分をイメージすること ・一緒に頑張る仲間 <p>(補助発問)</p> <p>○目標や夢を達成しようとするとき、自分に足りなくなってしまうことはなんだろう。何が原因で、できなくなってしまうだろうか。</p> <p>(「考え、議論する」意欲を高める工夫)</p>	<p>・ワークシートに記入後、周りの人と、意見を共有させる。その後全体で発表。</p>
<p>終末</p>	<p>8分</p> <p>4 本時を振り返る</p> <p>○これから目標や夢を達成する時、どのように頑張っていこうと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植松さんのようにあきらめずに頑張って、努力してみようと思う。 ・今の生活で目標を達成させるには何が必要か考えることができたから、実際に心がけて生活したい。 <p>(道徳的価値を自分事として捉える)</p> <p>○本時の感想を記入する。</p>	<p>・ワークシートに記入</p> <p>・時間があれば発表させる。</p>

4' 道徳的実践意欲の分析表（本時の感想を分析）

教材	「どうせ無理」をなくしたい	
内容項目	A 希望と勇気、克己と強い意志	
主題名	夢や目標をあきらめない	
ねらい	「どうせ無理」と言われた夢を実現させた植松さんの生き方を学ぶことを通じて、より高い目標をもってその達成を目指し、希望と勇気をもって着実にやり遂げようとする心情を育てる。	
目標とする感想	達成度	レベル2
	価値の理解	価値の理解の深まり
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標・夢の実現に向けて、諦めずに、努力や挑戦する心が大切だと気が付くことができた。
	達成度	レベル1
		価値の理解
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標や夢の実現に向けて、諦めずに、努力や挑戦することはすごいと思う。
	達成度	レベル3
	道徳的実践意欲	道徳的実践意欲
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標・夢の実現に向けて、諦めずに、努力や挑戦する心が大切だと気が付くことができた。今後、何か取り組みたいことができたなら、諦めずに取り組んでみようと思う。 自分の目標・夢の実現に向けて、諦めずに、努力や挑戦する心が大切だと気が付くことができた。目標の実現のために自分には何が必要か考えて、一つ一つ取り組んでいきたい。

- 1 主題名 内容項目 国際理解、国際貢献 (内容項目番号 C- (18))
 (教材名 「平和への願い」 出典「とびだそう未来へ3 (教育出版)」)

2 主題設定の理由

(1) 価値について

内容項目 C- (18) は、「世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること」とある。近年グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることは、重要な課題となっている。現代的課題の解決に向けて、国内に目を向けるだけでなく、国際的視野に立ち、国際理解に努めることが必要である。例えば、今日のウクライナ情勢の報道は、世界の平和的秩序を脅かす問題であり、ウクライナと日本は地理的には遠く離れているが、我々日本人にとっても大きな衝撃となっている。従って、「国際理解、国際貢献」は、今後の平和的な社会を形成する上で我々が模索すべき最も重要な道徳的価値の一つであると考える。異なる文化や価値観を尊重し、相互理解を深め、よりよい社会を形成し、平和的な世界の発展に貢献する意欲を高めることが求められる。

3 学年の生徒は、1 年次の「歴史を変えた決断」、2 年次の「六千人の命のビザ」の教材を通して「国際理解、国際貢献」への理解を深めてきた。世界の中の日本人という視点を持った教材を扱ったことは、国際的視野に立ち、日本人が世界の平和に貢献できることは何か真剣に考えるきっかけになったと感じる。昨年度末に行った道徳の振り返りでは、最も深く考えさせられた教材の一つとして「六千人の命のビザ」の感想を挙げている生徒が多かった。また、今回のアンケート結果からも、昨今のウクライナ情勢に対する生徒の関心は非常に高く、平和な世界が壊されつつあることへの悲しみと、平和を持続していくことの難しさを感じている生徒が多いことがわかった。

以上のように考察すると、世界の中の日本人としての自覚を持ち、平和的な社会の発展に貢献するためには具体的に何ができるか話し合うことで、「国際理解、国際貢献」への理解が深まり、生徒が平和的な社会の実現に向けて実践すべきことは何か考えることに繋がるだろう。

(2) 生徒の実態について

本授業を実施するにあたり、以下のようなアンケートを行った。(実施人数 35人)

- ① 道徳の授業で学んだことは必要のあることだと思いますか。

とても必要のあることだと思う	14
必要のあることだと思う	20
あまり必要のないことだと思う	1
必要のないことだと思う	0

- ② 道徳の授業は好きですか。
- | | |
|-----------|----|
| 好き | 7 |
| まあまあ好き | 26 |
| あまり好きではない | 2 |
| 嫌い | 0 |
- ③ 自分の考えを友達に伝えることは好きですか。
- | | |
|-----------|----|
| 好き | 9 |
| まあまあ好き | 19 |
| あまり好きではない | 6 |
| 嫌い | 1 |
- ④ 友達の意見や感想を知ることは好きですか。
- | | |
|-----------|----|
| 好き | 11 |
| まあまあ好き | 21 |
| あまり好きではない | 2 |
| 嫌い | 1 |
- ⑤ 与えられた質問について友達と話し合うことは好きですか。
- | | |
|-----------|----|
| 好き | 13 |
| まあまあ好き | 18 |
| あまり好きではない | 4 |
| 嫌い | 0 |
- ⑥ 今までの道徳を通して、物事に対する自分の考え方を深められたと感じたことはありますか。
- | | |
|------------|----|
| ある | 13 |
| どちらかといえばある | 13 |
| どちらかといえばない | 6 |
| ない | 3 |
- ⑦ 今までの道徳を通して、新しい考え方が身に付いたと感じたことはありましたか。
- | | |
|------------|----|
| ある | 14 |
| どちらかといえばある | 15 |
| どちらかといえばない | 3 |
| ない | 3 |

⑧ 今までの道徳の授業で学んだことで、学校生活や日常生活で生かそうとしていることはありますか。

ある	12
どちらかといえばある	4
どちらかといえばない	16
ない	3

⑨ 現代の社会問題で将来的に解決しなければいけないと思うのは何ですか。

ロシア・ウクライナ情勢	16
新型コロナ ウィルス	6
地球温暖化などの環境問題	4
その他	9

本学級の生徒は、素直で思いやりのある生徒が多い。2年生の頃から培われた人間関係もあり、少人数グループの話し合いでも、お互いが自分の意見を躊躇することなく伝え合うことができているように感じる。アンケート結果からも、お互いの意見を知ることを楽しみ、話し合うことへの積極的な姿勢がわかる。道徳の授業へ前向きに参加している生徒も多く、自分の考えを深めたり、新しい考え方が身に付いたと感じている生徒が多い。一方で、道徳の授業で学んだことを日常生活に生かそうとする意志(道徳的実践意欲)を問う項目では、「どちらかといえばない」「ない」と半数以上の生徒が答えている。生徒が学んだことを日常生活に生かそうとする意志が向上するように指導を工夫することが課題である。また、「考え、議論する道徳」の実践に向けて、将来的に解決すべき現代的課題についての意識調査も行った。連日報道されているロシア・ウクライナ情勢を挙げた生徒が最も多く、罪もない多くのウクライナの人々が命を落としていることへの悲しみや平和を維持することの難しさを感じている生徒が多いことがわかった。以上のことを踏まえて、生徒の興味・関心を生かして「考え、議論する道徳」を実践していきたい。

(3)教材について

本教材は、平和について積極的に学ぼうとする主人公が、原爆を投下した国とその国民に対して抱いていた否定的認識を、その国の出身者であるオードリーさんとの出会いをきっかけに、揺さぶられるという内容である。主人公とオードリーさんのそれぞれの考えや気持ちを対比していくことで、主人公が平和について理解を深化させた結果として気づいた、平和を実現することの難しさについても、主体的に考えられるようにしたい。また、少人数グループの話し合いを通して、平和的な社会を実現するために必要な考え方や行動について具体的に考え、多様な他者と主体的に関わっていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てたい。

以上の分析からねらいを設定すれば、主人公とオードリーさんの気持ちを対比させ、双方の感情に共感し、少人数グループの話し合い活動を通して、平和と共存を実現することの大切さと難しさについて気付くことで、ねらいとする道徳的価値の理解が深まると考える。さらに、平和な世界の実現に向けて必要な考え方や行動を具体的に考えさせることで、ねらいとする道徳的価値を実践しようとする意欲の育成に繋がってほしい。

(4)指導観

この授業では、少人数グループでの話し合い活動を通して、平和な世界を実現するためにはどのような考え方や行動が必要か具体的に考え、ねらいとする道徳的価値を自分事として捉え、道徳的実践意欲と態度を育むことを目指す。「考え、議論する道徳」の実践に向けて、話し合い活動の時間を十分に確保するためにも、タブレットのミライシードの機能で事前に導入の問いに関する回答を集計し、学級全体の意見が可視化されるよう工夫したい。

展開では、主人公がオードリーさんとの交流を通して心が揺さぶられる場面を通して、自分の立場だけでなく相手の立場で考えることの大切さに気付かせたい。主発問で、平和な世界の実現に向けて、どのような考え方や行動が必要か考える活動では、昨今のウクライナ情勢を例に平和な世界が脅かされている現状に目を向ける補助発問を設定し、平和と共存の重要性を身近なものとして感じさせたい。さらに、道徳的実践意欲(ねらいとする道徳的価値を実生活に生かそうとする意志)の向上に繋がるように、ロシアがウクライナに侵攻にて以降、日本で生活するロシア人に対する中傷や嫌がらせが相次いでいる例を挙げ、ロシア・ウクライナ情勢の影響が私たちの身近にも及んでいることに気づかせ、平和な世界を作るためには、まず平和な社会を築いていくことが大切なのではないかという実践的な考えに結びつくように指導を工夫したい。主発問を考える際には、思考ツールを使うことで意見がまとまり、少人数グループでの話し合い活動の充実に関係すると考える。終末の発問で、平和な世界の実現に向けて日頃から何ができるか問うことで、学んだことを実生活に生かそうとする意志が向上することを目指したい。

また、本学級では、昨年度、海外の現地校より転入した、日本語の理解が難しい生徒がいる。当該生徒が理解できる言語で事前に内容の説明をし、同じ言語を話す生徒に通訳してもらいながら授業に参加できるように指導を工夫したい。

3 本時の指導

(1)ねらい

○参戦国相互の人々の立場で考え議論することを通して、平和と共存することの大切さと難しさに気づき、多様な他者と主体的に関わっていこうとする実践意欲と態度を育てる。

(2)仮説との関わり

本時では、以下のように指導していく。

<仮説1>話し合いの工夫を行えば、多面的・多角的に考えることができるようになり、道徳的価値についての理解が深まるだろう。(①道徳的価値の理解を深める)

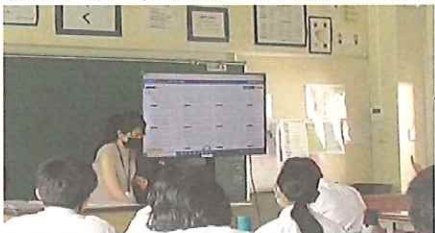
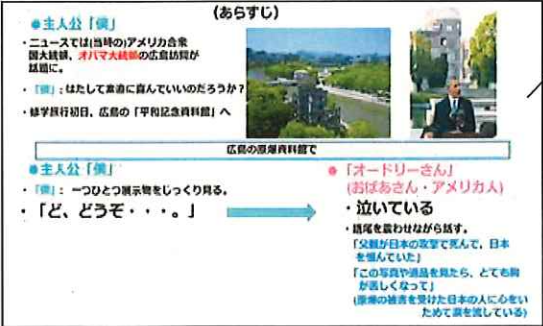
導入では、ミライシードの集計機能を活用して導入の発問に対する生徒の回答と理由を可視化し、多面的・多角的に考えることができるように工夫する。「平和と共存」を実現することの大切さに気づかせるために、教材を扱う際には、日本人である主人公のアメリカに原爆を投下された「被害者」としての気持ちに沿うだけでなく、日本軍の攻撃で父親を失ったアメリカ人のオードリーさんの立場も理解するための発問を設定する。「平和と共存」の必要性を感じながら、主発問の問いで積極的に考え、議論する姿勢が生まれるように、今の世界情勢について問う補助発問を設定し、関連する身近な話題を紹介する。また、

クラゲ・チャートの思考ツールを使い、少人数グループで主発問について考える場を設け、道徳的価値の理解が深まるように指導を工夫する。

<仮説2>生徒の実態に合った教材を選定し、授業の展開を工夫すれば、道徳的価値を自分事としてとらえられるようになり、道徳的実践意欲が育まれるだろう。(②道徳的実践意欲を育成する)

生徒の関心が高い「平和と共存」の教材を扱い、昨今の「ウクライナ情勢」にみる世界情勢と関連付けることで、生徒がねらいとする道徳的価値を自分事として捉えることを目指す。主発問との繋がりを意識して終末の発問を設定し、普段の生活でどのようなことが実践できるか具体的に考え、意見を共有することで道徳的実践意欲の育成を目指す。

(3)展開

過程	時配	生徒の学習活動と主な発問	支援及び指導上の留意点	資料
授業前学習	10分	○日本に原爆が投下された時、アメリカではそのニュースを聞いて「これで戦争が終わる」と喜んだ人がいた。この人々についてどう感じるだろう。 *「・許せない ・仕方ない ・おかしい」のいずれかを選択し、理由を記入する。	・広島平和記念資料館に関する資料を提示する。 ・ミライシードのムーブノートの機能を使って事前に生徒の意見を集約する。	写真
導入	5分	1 事前学習でムーブノートを使って集約した意見と理由を確認する。(多面的・多角的に考える) 	・どのような意見・理由があるのかテレビ画面に映し出して可視化する(個人名は表示しない)。	テレビ パソコン
	15分	2 「平和への願い」を読み、相手の立場に立って考えるということについて話し合う。 ・教材を読む。 ・あらすじを確認する。 	・パワーポイントで内容の概略を確認する	テレビ パソコン

展
開

○語尾を震わせながら話すおばあさんの言葉を聞いて、「僕」はどんな気持ちになったろう。

- ・この人もつらい目に合ったんだ。
- ・傷ついたのは日本だけではないんだ。

○補助発問

あなただったら、オードリーさんにどんな言葉をかけるだろうか。(道徳的価値の理解を深める)

- ・「あなたも辛かったんですね。」
- ・「悲しい思いをされたんですね。」

○補助発問

この話は過去の戦争に関わる話だったので、今の世界情勢に目を向けてみよう。今の世界は平和だろうか。

- ・平和ではない。

○補助発問

なぜ平和でないと思うか。

- ・ロシアとウクライナが戦争をしている。

○補助発問

ロシアとウクライナ、どちらが悪いと思うか。

- ・ロシア
- ・ロシア人の中にも辛い思いをしている人もいるかもしれない。
- ・どちらかが悪いと言うことはできない。

○補助発問

様々な報道から考えると、ロシアが圧倒的に悪いと思う人が多いが、このニュースを知っているだろうか？

(「考え、議論する」意欲を高める工夫)

20分 ◎「平和な世界」を実現するために、どんな考え方や行動が必要だろうか。

(道徳的価値の理解を深める)

- ・相手の立場を理解すること。
- ・様々な文化を受け入れること。
- ・問題が起こる前に、話し合うこと。

①思考ツール「クラゲチャート」を使って考えを個人でまとめる。



②4人班で話し合い、いくつかの班に発表せざる。班で記入したボードは全て黒板に貼る。

・「平和への願い」で学んだ道徳的価値(参戦国相互の人々の立場で考えることを通して、平和と共存することの大切さと難しさに気付く)を振り返る。

・ロシアがウクライナに侵攻後、国内でロシア人に対する誹謗中傷が相次ぐ例を紹介する。

ワーク
シート
ホワイ
トボ
ード



終末	10分	<p>3 人類の一員として自分が様々な人々とどのように関わっていきたいか、考えをまとめる。</p> <p>○「平和な世界」を実現するために、日頃からどのように考え、行動することができるだろう。</p> <p>(道徳的価値を自分事として捉える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えだけで行動しない。 ・相手の立場になって考える。 ・双方の立場をよく考えることが大切。 <p>○本時の感想を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで意見を交換し、何人かの意見を全体で共有する。 ・具体的な考えや行動を明確にすることで、道徳的実践意欲の育成を目指す。 	
----	-----	---	---	--

4 道徳的実践意欲の分析表(本時の感想を分析)

教材	「平和への願い」		
内容項目	C主として集団や社会との関わりに関すること 国際理解・国際貢献		
主題名	平和と共存		
ねらい	参戦国相互の人々の立場で考え議論することを通して、平和と共存を実現することの大切さと難しさに気づき、多様な他者と主体的に関わっていこうとする実践意欲と態度を育てる。		
目標とする感想	達成度	レベル2	
	価値の理解	<p>価値の理解の深まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和の実現に向けて、自分だけの視点で考えるのではなく、相手の立場を理解することの大切さに気づくことができた。 	<p>レベル1</p> <p>価値の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和な世界を実現することの大切さを知ることができた。 ・平和な世界を実現することの難しさを感じた。
	達成度	レベル3	
	道徳的実践意欲	<p>道徳的実践意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和の実現に向けて、自分に何ができるか考えていきたい。 ・平和の実現は難しいと思ったが、自分ができるところを探していきたい。 ・平和の実現に向けて、自分だけの視点で考えるのではなく、相手の立場を理解することも大切にしていきたい。 ・平和を実現するためには、まず自分の利益だけ考えるのではなく、相手の立場を理解する姿勢を持って生活していこうと思った。 	

検証授業の結果

生徒が授業の最後に、ワークシートに書いた全ての感想を3つのレベルに分け、指導の成果と課題を分析した。

●実践1（第一学年）

教材	「どうせ無理」をなくしたい				
内容項目	A 希望と勇気、克己と強い意志				
主題名	夢や目標をあきらめない				
ねらい	「どうせ無理」と言われた夢を実現させた植松さんの生き方を学ぶことを通じて、より高い目標をもってその達成を目指し、希望と勇気をもって着実にやり遂げようとする心情を育てる。				
感想の分類結果	達成度	レベル2	レベル1	レベル0	合計
	価値の理解	価値の理解の深まり	価値の理解	価値の理解が見られない	18(69%)
		13(50%)	3(11%)	2(8%)	
	達成度	レベル3			合計
	道徳的実践意欲	道徳的実践意欲			8(31%)
8(31%)					

<成果>

ほとんどの感想が「レベル2」もしくは「レベル3」に分類され、大部分の生徒が、ねらいとする道徳的価値を理解できたことがわかった。多くの生徒が、道徳的価値の理解を深めることができたのは、生徒の意見を基に、この教材で取り上げられている技術者の植松努さんが「無理」と言われたことを実現できた理由を黒板に教師が思考ツールを描くことで、生徒が理解を深めることができた成果であると考えられる。

その黒板の思考ツールをヒントに、自分の目標を達成するためには何ができるか具体的に考えることができた生徒の感想には、道徳的実践意欲を確認することができた。

<課題>

道徳的実践意欲の数値は全体の半数に届かなかった。道徳的価値の理解を深めることはできたが、自分の夢や目標に当てはめて考えると、具体的に何から実践すべきなのか考えが浮かばない生徒が多かったようである。自分の夢の実現に向けて、身近なことで何から取り組むことができるのか考えさせる指導が必要だったと考える。

また、道徳的実践意欲の向上に向けては他教科との連携が必要である。今回の内容を振り返りながら、特別活動の進路学習で自分の夢を実現させるための進路選択を具体的に考えることは、本時の道徳的価値を実生活に生かそうとする姿勢を高めることに繋がると考える。

●実践例 2 (第三学年)

教材	「平和への願い」				
内容項目	C 主として集団や社会との関わりに関すること 国際理解・国際貢献				
主題名	平和と共存				
ねらい	参戦国相互の人々の立場で考え議論することを通して、平和と共存を実現することの大切さと難しさに気づき、多様な他者と主体的に関わっていこうとする実践意欲と態度を育てる。				
感想の分類結果	達成度	レベル 2	レベル 1	レベル 0	合計
	価値の理解	価値の理解の深まり	価値の理解	価値の理解が見られない	18(56%)
		18(56%)	0	0	
	達成度	レベル 3			合計
	道徳的実践意欲	道徳的実践意欲			14(44%)
		14(44%)			

<成果>

全ての感想が「レベル 2」もしくは「レベル 3」に分類されたことは、全生徒がねらいとする道徳的価値を理解できたことを意味する。

さらに、生徒が道徳的価値の理解を深めることができたのは、思考ツールを活用しながら 4 人班の話し合い活動に重点的に取り組んだ成果だと考える。また、昨年度の全校道徳アンケートを学級別に分類してみると、道徳的実践意欲を問う項目で、この学級の肯定的な回答の数値は 41.3%であり、今回の検証授業の道徳的実践意欲の数値は、昨年度を上回っていることがわかった。

多くの生徒の感想で道徳的実践意欲が確認できたのは、ねらいとする道徳的価値を自分事として捉えるために、ロシア・ウクライナ情勢に影響された国内のニュースを提示し、平和な世界を作るためにはどのように考え、行動するべきか問いかけた成果であると考えられる。

<課題>

学校生活や日常生活の具体的な場面に当てはめながら、道徳的価値を自分事として捉えるための指導の工夫があれば、道徳的実践意欲をさらに多くの生徒に育成することができたのではないかと考える。

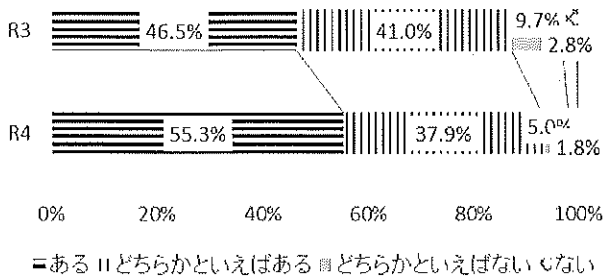
また、道徳的実践意欲の向上のためには、道徳の授業だけでなく、他教科と連携した指導の工夫が必要だと考えられる。他教科の「平和と共存」に関連する題材を通して、今回の道徳の授業で学んだ価値を振り返りたい。

6 研究の成果と課題

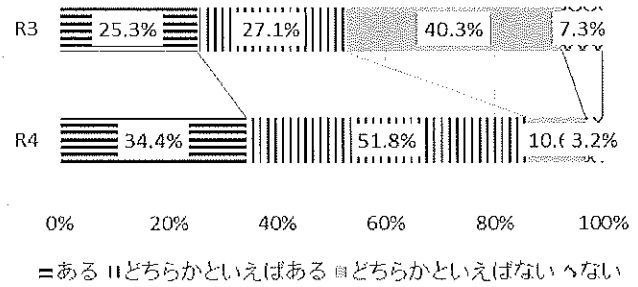
(1)一学期末全校道徳アンケートの結果

道徳の授業に対する生徒の意識の変容を昨年度と比較し、分析した。

Q3 今までの道徳の授業を通して、物事に対する自分の考え方を深められたと感じたことはありますか？



Q4 今までの道徳の授業で、学んだことを学校生活や日常生活に活かそうとしていることはありますか？



<「道徳的価値の理解」について>

(成果)

Q3は、「道徳的価値の理解の深まり」について問う項目である。昨年度は「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒が87.5%だったのに対して、今年度は93.2%となり、昨年度と比べると5.7%増加したことがわかった。これは、思考ツールの活用や少人数グループの話し合い活動を工夫して行った成果であると考えられる。

<「道徳的実践意欲」について>

(成果)

昨年度のアンケートで一番の課題であった「道徳的実践意欲」を問うQ4の項目では、「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒が52.4%だったのに対して、今年度の結果は86.2%となり、昨年度と比較すると33.8%増加した。校内道徳指導部会を通して全校で授業実践と振り返りを毎月行い、生徒の興味や関心を高める指導を工夫した成果だと考えられる。

また、礼儀や食品ロスの問題を扱った授業の後で、生徒の挨拶が活発になったり、給食を残さないように配膳の仕方を工夫する等の意識の変化が日常生活にも表れていたと感じた教師も多かった。

(課題)

一方で、今年度のQ3の道徳的理解の成果の数値(93.2%)と比較すると、Q4の道徳的実践意欲の成果の数値(86.2%)は低い。検証授業の結果からもわかるように、今後は道徳的価値を自分事として捉えるための発問や活動の工夫を重点的に研究していきたい。

(2)今後に向けて

道徳的実践意欲を分析するために、生徒の感想を3つのレベルに分けた。この分析表を授業の指導改善のために今後も生かしたい。年度末に評価を行う際はこの分析表を活用し、記述式評価を行いたい。

また、本校は佐倉市の道徳科の研究モデル校として、今回の成果と課題を生かした研究を来年度も継続させていきたい。